

Title	Layer&Integration
Author(s)	松村, 由紀
Citation	デザイン理論. 2008, 53, p. 124-125
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/53548
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

Layer&Integration

松村由紀／京都工芸繊維大学大学院造形科学研究科 造形科学専攻博士後期課程

—Layer & Integration—

それは、「積み重ねと融和・統合」を意味する。近年の自主制作作品及び、仕事としての作品制作の際、漠然とではあるがこのコンセプトを意識してきた。専門としているヴィジュアルコミュニケーションデザインの作業は、「分かりにくいものを分かりやすく伝える」というシンプルな考え方にプラスして、近年は特に「社会の問題を解決する」という広義的要素も欠かせない。

日本の古来より受け継がれてきた伝統的な美を尊重し、学び、先人の知と技に思いを巡

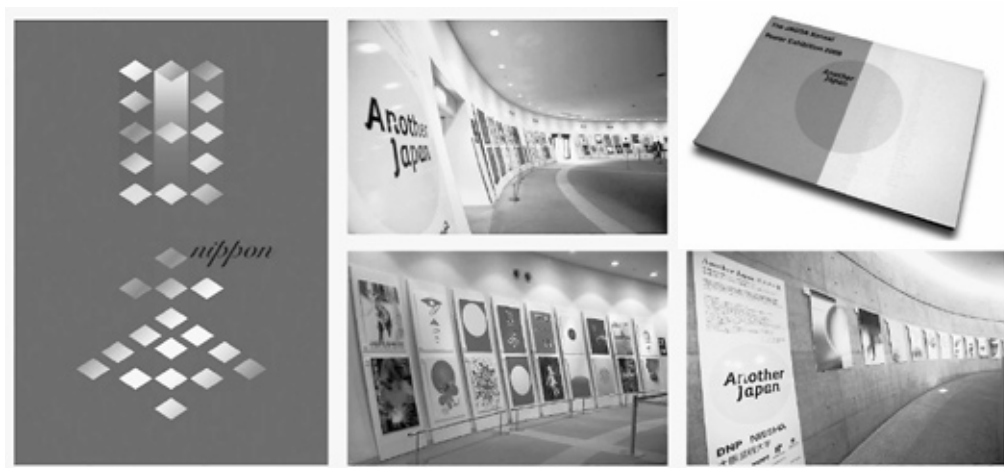
らせながら、コツコツとデザインワークを積み重ねていく。まさに「温故知新」的発想である。そしてさらに、社会の問題の膿を出し、新たな風穴をあけるがごとく、迎える新たな時代を、明るく前向きに、希望ある社会へと導いていく使命がデザインにはあると確信している。

ここに、ポスター作品「Layer Japan」と、飾れるグリーティングカード「幸せのデザイン」を発表し、自身のこれからのヴィジュアルコミュニケーションデザインの研究を向上させていく、気概にしていきたい。



Jagda 「Another Japan 展」
出品ポスター

2008年6月に大阪で開催された、Jagda（日本グラフィックデザイナー協会）の総会。このイベントの一つとして、サントリーミュージアム天保山に於いて、「Another Japan 展」が開催され、参加した。「もうひとつの日本」というテーマを受けて抱いたイメージは、積み重ねてきた日本独自の伝統・文化・芸術への畏敬の念と、これからの日本のデザインが、奥行きのある「美しさ」を発信しつづけることに願いをこめた。



サントリー美術館での展示風景&カタログ



「幸せのデザイン」

飾れるグリーティングカード

年に一度、誰にでも訪れる誕生日。何歳になってもかけがえのない特別な大切な記念日。「包む・贈る」といった、日本古来から続く文化と、「書をしたためる」といった日常のたしなみを併せ持つグリーティングカード。これにさらに、「飾る」という要素を付加し、送り手側の思いを大切にし、お守りのようにデスクの近くなどで時々みて確認する。一年ごとに歳をとる、あたりまえの日常と、誕生日という記念日を大切にすることが、「幸せ」につながると信じて。



封筒から取り出し→中央のつまみを持ち上げてみると、Happyの頭文字「H」の文字が出現。裏面には、送り手側からのメッセージを記入。何気ないバースデーカードがユニークなPOPUPとなり、楽しく飾ることができる。



【しあわせの】グリーティングカード(日本の伝統色5種) 一写真左より

【し】ずやかに/萌黄色(もえぎ) — 藍色

【あ】かるく/水浅葱色(みずあさぎ) — 黄蘗色(きはだ)

【わ】たくしらしく/黄金色—寿ぎ(ことほぎ)の色+かさね

【せ】いせいかいく(生生化育)/蘇芳色(すおう) — おめでたい色9種

【の】びらかに/柿色—鶺鴒色(ひわ)

このデザインワークは、大阪のデザイン専門学校からの依頼により、「eラーニング」の教材として制作したことより始まった。A4サイズ内にデザインされたPDFファイルをダウンロードし、カッターナイフで慎重

にカットアウトし、固形のりで貼り合わせるだけで完成する簡単な仕組みである。

実際に、数人の家族や友人にこのカードをチョイスしてもらい、贈り、喜んでもらうことも出来た。デザインの醍醐味はそこである。